



全国連合退職校長会

会報

第五十四回 総会 挨拶

全国連合退職校長会

会長 入子 祐三



本日は、平成30年度第54回全国連合退職校長会総会開催に当たり、全国各地から代議員・理事の皆さま方にご参集いただきまして誠にありがとうございます。

また、林芳正文部科学大臣代理としてお見え頂きました文部科学省初等中等教育局主任視学官清原洋一様をはじめご来賓のご臨席を賜り、開会行事に華を添えて頂きましたことを心より感謝とお礼を申し上げます。

本総会の開会に当たって、戸張敦雄会長の急逝という不幸に見舞われました。会長が、四月から復帰されることを信じて、会務のすべてを先送りしたものですから、役員の様は、大変なものでした。人事をはじめ、新年度の諸準備が滞っており、態勢づくりを急ぎ、今日を迎えました。

戸張会長は「温故創新」の考えで、本会を革新してこられたと思います。とりわけ「創新」に力を入れて運営されてきました。私は戸張会長の残任期間の会長代行として、「温故創新」の考えを受け継ぎ、務めて行きたいと考えております。

さて、全連退の当面する課題は山積しております。

働き方改革のための指導・運営体制の構築に関する緊急提言を受けて「すぐできることから実行」の呼びかけの輪を広げたいと考えます。学校における働き方改革は「教員の定数改善」と「教職員の業務改善」の両者を調整することが必要であると考えています。また働き方改革の一環として「チームとしての学校」「コミュニティ・スクール」構想による支援協力体制づくりなどを推進したいと考えます。

一方、新学習指導要領の円滑な実施に現場の支援・協力体制を組むことが重要になり、退職校長会の動きに期待が寄せられています。

社会に開かれた教育課程の編成にあたっては、主体的・対話的で深い学びの実現の具体化を図る授業の改善を全教科に導入すること等を考えますと、指導

者の資質・能力の向上が重要になります。経験豊かな先輩からの指導助言が欠かせないと思います。退職校長会の応援が欲しいのではないのでしょうか。多彩な人材の参画による学校の教育力向上を図る必要があると考えます。

なお、全連退は教育尊重の気運を高め教育振興へ寄与することや会員の福利・厚生の拡充と福祉の増進に資することを目的に活動しています。

伝統と創意による組織的活動の成果を基盤として、諸活動の円滑な運営に努め、連合体としての活動を展開しなければと考えています。進むべき道を、堅実に歩みが続けて行きたいと思っております。

結びに、副会長・常任理事・理事をはじめ会員の皆さま方のご支援を頂いて、懸命に任を果たしていく所存でございますことを表明し、挨拶いたします。

祝辞

文部科学大臣 林 芳正様
 (代読)初等中等教育局
 主任視学官 清原 洋一様



第54回全国連合退職校長会総会が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げますとともに、全国連合退職校長会が長年にわたり教育の振興・発展に格段の御尽力を続けておられますことに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

現在、安倍内閣においては、人生100年時代や「ソサエティ5.0」の到来を見据えた経済社会を大胆に構想する中で、「一億総活躍」の旗を更に高く掲げ、日本を誰にでもチャンスがあふれる

国へと変えていくため、内閣一丸となって「人づくり革命」を断行し、「生産性革命」を実現することを最大の使命としています。

こうした基本認識の下、まずは、家庭の経済事情に左右されることなく、誰もが希望する質の高い教育を受けられるよう、幼児期から高等教育段階までの切れ目のない形で教育費の負担軽減を推進します。

また、我が国が持続的に成長・発展するには、一人一人の能力や可能性を最大限引き出し、多様な個性を伸ばす教育が不可欠です。この実現に向け、新学習指導要領等を確実に実施し、学校教育を改善・充実させていくためには、教職員の役割が極めて重要です。

文部科学省では、安倍内閣が「働き方改革」を実行する中で、学校においても教師の長時間勤務の要因を見直し、働き方改革を実行するため、昨年末にまとめた緊急対策に基づき、教職員

定数の改善充実等の取組等を通じ、学校現場を積極的に支援してまいります。

また、急激な時代の変化に対応できる人材育成が求められている中、「人づくり」を担う教師の資質能力向上を図ることが必要であり、教師の養成・採用・研修の一体的改革を着実に進めます。

私としましては、来るべき新しい時代を創るため、文部科学行政全般にわたり、「人づくり」をはじめとした諸課題の解決に着実に取り組む考えです。

皆様におかれましても、教育に対する深い知識と経験を生かし、初等中等教育の発展のために一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本総会が、所期の目的を達成し多大な成果が得られますよう御期待いたしますとともに、全国連合退職校長会のみならずの御発展と、御出席の皆さまの御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

全国校長会代表
全国連合小学校長会

会長 種村 明頼様



全国連合小学校長会会長の新宿区立西戸山小学校の種村明頼です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、第54回全国連合退職校長会総会が全国各地から多くの会員の皆様の参加を得て、かくも盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。はじめに、これまで全国連合

退職校長会が、全国の学校教育の充実・発展に多大な貢献をしてこられましたことに対して深く敬意を表するとともに、私ども、現役の校長が多大なお力添えを頂いておりますことに対し、厚く御礼を申し上げます。また、長年にわたり、学校教育において、お力を尽くしていただき、ありがとうございました前会長の戸張敦雄様のこの度のご逝去に対し、哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、2030年を見据え、すべての子どもたちにこれからの時代を生き抜いていくために必要な資質・能力を確実に育成する観点から学習指導要領が改訂され、小学校及び中学校では、昨年3月に、高等学校では今年3月に告示されました。学校教育において、児童生徒一人一人に、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能

性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができる力を育成していくことが求められています。そのためには、「生きる力」の育成の意義を改めて確認し、取り組んできた実践を検証し、より高みを目指していく必要があります。その際、今まで取り組んできたよい実践の蓄積を生かし、各教科等も含め、教育課程全体を通して取り組んでいくことがとても重要であると考えます。

私も校長は、全面実施に向けて見通しをもち、教育活動の質を高めるためのカリキュラム・マネジメントを進めていかねばなりません。一方、教員の超過勤務の問題を解決していくことも含め、「学校における働き方改革」が大きな課題となっております。昨年末に中央教育審議会より、

その方策として「中間まとめ」が示されました。様々な視点で対応策が示されていますが、校長には、教員の勤務時間に関する意識改革や学校組織運営体制の見直し等の対応が求められています。中央教育審議会の「学校における働き方部会」においても、引き続き検討されており、年内には答申が出されると聞いております。今後、教員の長時間勤務の実質的な減少につながるよう、対応していく必要があると考えます。

全国連合退職校長会の皆様には、今までも、様々な課題について、多くのご示唆をいただいております。今後も、皆様方のお力添えをいただければ幸いです。結びになりますが、全国連合退職校長会のみならずの発展と皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

総会報告

日時 平成30年6月12日(火)

午前10時より

会場 きゅりあん(品川区立総合区民会館)

1階小ホール

出席者 正副会長、常任理事、理事、監事、代議員等

126名

司会・進行 総務部長 田中昭光

〈開会行事〉

1 開会の辞 副会長 鷲尾 実

2 国歌斉唱

指揮 事務局次長 中原慎三

3 全連退綱領の唱和

主唱 生涯福祉部長 岡野仁司

4 会長挨拶 会長代行 入子祐三

5 来賓祝辞

○文部科学大臣 林 芳正様

(代理) 初等中等教育局

主任視学官 清原洋一様

○全国校園長会長代表

全国連合小学校長会

会長 種村明頼様

6 来賓紹介

事務局次長 徳永裕人

7 議長選出

前日の理事会で溝渕正臣、片

山智成の両副会長を選出

8 議事

第1号議案

平成29年度会務報告

総務部長 田中昭光



第54回 全連退総会 (会場風景)



議長団

第2号議案

平成29年度決算報告

並びに監査報告

・決算報告

会計部長 三上裕三

・監査報告

監事 佐藤俊市郎

(P10)

第3号議案

平成30年度補欠役員の承認

その1 会長の就任

入子祐三(会長代行)

その2 副会長の退任と就任

(東北地区)

千葉 昭 ↓ 佐藤俊彦

(関東甲信越地区)

西 輝昭 ↓ 川合俊平

(九州地区)

大森 勲 ↓ 石塚勝郎

第4号議案

平成30年度活動目標案

並びに事業計画案

各部長・委員長から提案

(P8・9)

第5号議案

平成30年度予算案

会計部長 三上裕三

(P11・12)

第6号議案

「総会宣言」の採択

読み上げ 永峰 貴

※各提案は原案通り承認されま

した。

〈閉会行事〉

9 感謝状及び記念品贈呈

(P5)

代表挨拶 熊本県 大森 勲

10 閉会の辞

副会長 石塚勝郎

感謝状並びに記念品贈呈者

(1) 退任副会長

- 千葉 昭様 (東北)
- 西 輝昭様 (東海北陸)
- 大森 勲様 (九州地区)

(2) 退任常任理事

- 石塚 二郎様 (栃木)
- 木山 高美様 (出版事業委員長)

(3) 退任理事

- 大山 明夫様 (山形)
- 平瀬 仁紀様 (石川)
- 後藤 忠喜様 (岐阜)
- 中塚 博文様 (静岡)
- 加藤 正躬様 (愛知)
- 鈴木 美文様 (三重)
- 佐藤 榮一様 (大阪府)
- 徳田 公裕様 (岡山)
- 中原 和昭様 (山口)
- 谷村 雄二様 (愛媛)
- 谷脇 和隆様 (高知)
- 花田 一芳様 (福岡小)
- 朝来野展生様 (大分)
- 日高 慎一様 (宮崎)

記念講演 (午後1時～2時40分)
講師紹介

講師 文部科学省

大臣官房審議官

下間 康行様

演題

「初等中等教育の課題と
 展望」



講演内容

- 新学習指導要領の円滑な実施と学校における働き方改革
- ・外国語教育の抜本的強化
- ・小学校段階におけるプログラミング教育の在り方

- ・道徳の「特別の教科」化
- ・学校における働き方改革に関する緊急対策

○教師の資質向上について

・教育公務員特例法等の一部を改正する法律の概要

・独立行政法人教員研修センター法の一部改正

○いじめ対策・不登校支援

・いじめ対応で果たすべき教育委員会と学校の役割

○重大事態の発生報告など法等に基づく措置の徹底

・不登校生徒に対する支援

○学校安全の推進等について

・今後の学校安全に関する方向性

・継続的かつ効果的な見守り体制の構築

・通学路の安全推進体制の総点検

○コミュニティ・スクール

・コミュニティ・スクールの仕組み

・コミュニティ・スクールに関する成果認識

- ・コミュニティ・スクールに関する制度改正(義務標準法の一部改正)
- ・コミュニティ・スクールの導入状況
- 教科書について
- ・デジタル教科書の導入により期待されるメリット

☆講演内容の要旨は次号に掲載いたします。

全連退ホームページの「表紙の写真」を募集します。
 内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。
 写真は3～5枚で、メールまたはプリント写真での受付とします。
 採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。
 今回の募集期間は平成30年9月30日までとします。送り先のメールは info@zenretai.org
 住所は 〒141-0022 東京都品川区東五反田 5-21-13 308

平成30年度役員一覧

Table of board members for the main department (本部). Columns include titles like 監事, 常任理事, 副会長, 会長 and names such as 大塚, 樋浦, 佐藤, etc.

Table of regional board members (地区). Columns list regional titles like 理事(副会長) and names such as 上野, 中川, 山口, etc., categorized by region like 北海道地区, 東北地区, etc.

Table of staff members (事務局). Columns list titles like 事務局次長, 事務局員 and names such as 佐々木, 中原, 徳永, etc.

理事会報告

日時 平成30年6月11日(月) 午後1時～4時30分

会場 きゅりあん 小ホール

出席者 会長代行、副会長、

常任理事、理事、監事

司会・進行 総務部 藤崎武利 等 67名

※物故者のご冥福を祈り、黙禱

1 開会の挨拶 副会長 大森 勲 会長代行挨拶 会長代行 入子祐三

2 平成29年度会務報告 総務部長 田中昭光 監査報告 会計部長 三上裕三

3 平成29年度決算報告・監査報告 監事 樋浦晃治

4 補欠役員選出並びに総会宣言の 文案作成について

5 8地区の副会長による役員選出 委員会、総会宣言の文案作成委 員会を開催

6 再開 総会の議長候補の選出 副会長 溝渕正臣 会長 片山智成 を選出

7 補欠役員候補者選出報告 役員選出委員長 木内芳則

全国連合退職校長会 綱領

われわれは 全国連合退職校長会の設立以来の歴史や活動を継承し わが国の教育の将来を見定め 会員としての自覚と誇りをもって ここに綱領を制定する

- 一 教育尊重の気運を高め 日本の教育の振興に 寄与する
一 生きがいをもって生涯学び続け 充実した生き方を 実現する
一 会員の親睦を図り 福利・厚生の拡充に努める
一 地域の教育・文化の向上や 良好な環境の形成に 尽力する
一 関係機関・団体と連携・協力して活動の発展を図る

平成十六年六月十七日

(設立四十周年) 制定

総会宣言

情報化、グローバル化が急速に進展する不透明な時代を、たくましく、しなやかに生きていく人材の育成には、教育尊重の気運を高め、「社会総がかり」で教育を行うことが大切である。また、今日の社会保障制度改革の動向を見据えて、会員の福祉の増進に努める必要がある。

この時に当たり、全国連合退職校長会は、「変化を恐れず創造の営みを間断なく実践する」との思いを強くして知恵と工夫を念頭に、各退職校長会の連合体として活動を進めていく。

ここに、総会において、左記事項の実現に尽力することを宣言する。

記

- 一 各退職校長会との連携を一層密にし 健全な教育世論を喚起し 教育の振興に寄与する
一 質の高い教育を実現するため 教育条件の整備・充実を期し 政府・関係機関への要望や意見具申を強化する
一 将来展望の持てる年金制度をはじめ 高齢者の負担が過重にならないよう配慮した持続可能な社会保障制度の改革を求め 会員の福祉の増進に努める
一 学校支援事業や社会貢献活動など地域学校協働活動への参加を通して 家庭や地域の教育・文化の振興に努める
一 会員相互の絆を大切にし 情報の共有や共通理解を図り 校長会とも連携を深め組織の拡充・活性化を着実に進める
一 国民こそぞって教育の在り方を考える日として 国民の祝日「教育の日」の制定と活動の充実を図るため 関係機関や団体とともにその推進を図る
一 東日本震災・原発事故並びに熊本地震等で被災された地域の復興と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに 会員の相互扶助と連帯の精神により支援に努める

平成三十年六月十二日

第五十四回 全国連合退職校長会 総会

8 平成30年度活動目標(案) 並びに事業計画(案)

各部長・委員長 (P8・9)

9 平成30年度予算案

会計部長 三上裕三

10 「総会宣言」 文案発表

文案作成委員長 永峰 貴

11 その他

(1)会則の一部改正に関する検討経過報告及び申し合せ事項

(2)各部・委員会からの調査・報告等に関する依頼

①各退職校長会の「平成30年度の概要」の提出 総務部長 田中昭光

②加入状況調査について 総務部長 田中昭光

③「学校週5日制の現状と教育の方向性」調査 教育振興部長 荻原武雄

④生涯福祉関係調査 生涯福祉部長 岡野仁司

⑤新会員勧誘用会報の増配数 広報部長 村山忠幸

(3)第7回教育図書の上梓報告及び依頼 出版事業委員長 藤崎武利

12 全連退の歌

「光にかけて」の斉唱 指揮 中原慎三

13 閉会の挨拶 副会長 鷲尾 実

平成30年度 事業計画

活動目標

- 1 全国連合退職校長会は、教育尊重の気運を高め教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することを目的とし、伝統と総意による組織活動の成果を基盤として、諸活動の円滑な運営に努め、各退職校長会相互の連携を密にし連合体としての充実した活動を展開する。
- 2 各都道府県退職校長会との連携・協力を一層密にし、組織の拡充・活性化に努め、期待され存在感のある退職校長会を目指す。
- 3 教育諸条件の整備・充実を図るため、研究・協議を深め、時宜に応じて政府・関係機関へ要望や意見具申を行い、教育の振興に寄与する。
- 4 安心できる社会保障制度の確立並びに叙勲枠の拡大等について関係機関に要望を行い、会員の福祉の増進に努める。
- 5 教職員が本来の教育活動に専念できるよう、外部人材の活用や「チーム学校」の仕組み等の働き方改革に関し支援に努める。
- 6 地域全体で子供たちの成長を支え、地域の教育力の向上を目指す地域学校協働活動等への参加を通して、家庭や地域の教育・文化の振興に寄与する。
- 7 生きがいのある生涯学習を実践し、会員の交流活動や研修・親睦を深め、豊かな生活の実現に努める。
- 8 会員相互の絆を大切にし、会報等諸情報の共有と共通理解を図り、校園長会とも連携を深め、組織の活性化に努める。

る。

- 8 国民こそって教育の在り方を考える日として、国民の祝日「教育の日」の制定並びにその活動内容の充実を図り、教育尊重の気運の喚起・醸成に努める。

- 1 国民こそって教育の在り方を考える日として、国民の祝日「教育の日」の制定並びにその活動内容の充実を図り、教育尊重の気運の喚起・醸成に努める。
- 2 総会、理事会、副会長会、常任理事会等の企画・運営に当たる。また記念講演の企画・実施に努める。
- 3 関係省庁や中央教育審議会等への要望・意見具申・提言に努める。
- 4 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会の企画・実施に努める。
- 5 全国組織の教育関係団体と連携するとともにその支援に努め、本会の存在意義の高揚を図る。
- 6 全連退情報の発行やホームページの充実を努め、各都道府県退職校長会への迅速な情報提供をするとともに、情報の共有化を図り、会員の連帯感の醸成に努める。
- 7 「平成30年度 年間紀要」の編集発行に努める。
- 8 「平成31年度の活動目標・総会宣言」の素案を作成する。

事業計画

総務部

《総務部長 田中昭光》

- 1 本会の綱領や教育憲章の精神及び各退職校長会の意向を踏まえ、年度の目標を定め、各組織間の連絡・調整・相談等に当たるとともに、諸事業

9 「財務状況健全化検討会議」「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成果の具現に努める。

10 研修会を企画・運営し、情報収集に努める。

教育振興部

《教育振興部長 荻原武雄》

1 「教育の日」について、未制定府県・市町村の制定推進並びに制定都道府県・市町村の事業の充実に寄与するとともに、国民の祝日としての制定を国会議員へ要望する。また、「教育の日制定20年の歩み」(冊子)を刊行する。

2 平成時代の終わりを迎えるに当たり、「学校週五日制の現状と教育の方向について」のアンケート調査を行い、各退職校長会の意見を集約する。

3 「全連退教育憲章」の趣旨の徹底・普及に努める。

4 教育振興に関する関係機関

への要請や意見具申の素案を検討する。

生涯福祉部

《生涯福祉部長 岡野仁司》

1 生涯学習活動の振興・充実に係る情報の収集と広報に努める。

2 会員並びに後進の生活安定・安全に係る情報の収集と広報に努める。

3 年金・高齢者医療・介護等の制度の改善・充実に係る全連退の提言・意見を日本退職公務員連盟等と連携して関係省庁に要望する。

4 叙勲における義務教育関係者の格上げと叙勲枠の拡大を関係省庁に要望する。

5 米寿・上寿を迎える会員を調査し、賀詞・寿詞を贈り長寿を慶祝する。

広報部

《広報部長 村山忠幸》

1 全連退の機関紙として、会

報には主要な会議や中央省庁等への要望活動、教育情報等を掲載する。

2 本年度は、年4回(208号、211号)の会報を発行する。発行予定日は、7月3日、9月30日、1月1日、3月15日とする。

3 新会員勧誘支援用として、209号(9月30日号)または210号(1月1日号)を希望する都道府県に増配する。

4 全連退ホームページの更新を適宜行う。

会計部

《会計部長 三上裕三》

1 各都道府県退職校長会と密接な連携を図り、会員数の確保や会費の増収に努める。

2 諸事業が順調に進められるよう、財務の適切な執行・運用に努めるとともに経費節減のための事業の見直し等を検討する。

3 今後の組織を支え、会務の

円滑な推進を図るために、「財務状況健全化検討会議」を継続し、将来につながる対応策を検討する。

教育課題委員会

《教育課題委員長 橋本誠司》

1 児童・生徒の学習意欲の喚起に資する教育環境の在り方について研究する。

2 中央教育審議会等の審議状況を見定めて対応策等を検討する。

出版事業委員会

《出版事業委員長 藤崎武利》

1 第7回の教育図書出版「心を育む学校の力」―学校と家庭・地域の協働を生かして―の関係機関や関係団体等への広報活動を行い、本書の活用を図る。

2 本書の書評についてまとめ考察するとともに、本書の編集企画及び作業についての反省・考察をする。



「研修・親睦・貢献」を柱に

岩手県公立学校退職校長会

会長 佐瀬 壽朗

平成23年の東日本大震災大津波襲来の本県では、甚大な被害を受け、本会では16名の会員が犠牲となり、多数の会員が家屋の流失・全半壊等により避難所生活を余儀なくされました。

全連退の皆様から義援金や激励を賜り、温かいご支援に感謝を申し上げます。

被災から7年が過ぎ、本県では復興と防災に取り組み強靱な県土づくりを推進しています。

被災された地区会の活動は、大方は以前の状態に回復していません。今後も被災地との交流を推進し、現場の「いわての復興教育」を支援して参ります。

当会は結成53周年を迎え、県内6ブロック、16地区会、会員2300名で組織し、「会員の親交、連帯意識の高揚、生きが

いの創出、教育振興と生涯学習社会への貢献」をめざし、「研修・親睦・貢献」を柱に、県・ブロック・各地区会の三つの規模で諸活動を構成しています。

県研修・親睦会は、年1回、各地区会が持ち回りで主管。毎年200名以上が参加し、一泊二日で地区の歴史・文化・風土に触れた現地研修と親交を深める親睦会は、好評を受けています。ブロック研修会は、16地区会を近隣地区会ごと6ブロックに構成し、主管地区会の創意工夫をもって展開されています。

16の各地区会活動は、会員のニーズの勘案や現職校長会との意向を踏まえ、多様に設定された成果をあげています。「貢献」は、教育関係機関・団体との連携・協力です。多くの会員は、識見・特技・経験を生かし地域や団体への奉仕、教育振興への寄与など社会を支える活動に多彩に貢献しています。

会員同士の連帯意識は強く、地区会間の結束は強固です。会員の高齢化、減少化が懸念です。

群馬県退職校長会の

主な活動について

群馬県退職校長会

会長 原 秀介

平成27年度は創立50周年記念式典、平成28年度は関ブロ群馬大会と大きな行事が続いた。平成29年度は県役員の改選期にあたり、会長はじめ多くの役員が交代した。諸活動については「改めて本来の活動にじっくりと腰を据えて取り組む年になよう」と総会で承認され、次の50年に向けスタートをした。

平成29年度活動方針と主な活動
①組織整備・運営の活性化
福利厚生 の充実 (総務部)

● 定期総会・理事会の企画運営
● 現職校長会との連携の強化
②会員相互の連携・親睦、教育支援活動の推進 (事業部)
● 宿泊研修会の充実

「ぐんま昆虫の森」研究員による講義と現地視察研修
● 年間活動報告「Nen Rin」の編集、発行

● 同好会、クラブ等の活動支援
③広報活動の改善・充実 (広報部)

● 「群馬県退職校長会だより」年3回発行 特色ある教育支援活動、支部活動等の紹介
④「ぐんま教育の日」推進
市町村「教育の日」の制定推進 (教育の日委員会)

● 「ぐんま教育の日」制定10周年記念大会 記念講演会
● 日本大学教授 佐藤晴雄先生「地域とともにある学校づくり」
● 市町村「教育の日」制定推進
⑤調査研究活動の充実 (調査研究委員会)

● 「退職後の生き方・在り方を考える」全会員にアンケート
平成30年度はアンケート分析考察を加え報告書の作成、会員、教育関係機関へ配布
平成30年度も29年度の活動方針を継続実施し、活動を通し退職校長会の会員で良かったという所属感、満足感が得られる活動を進めていきたい。

会誌『さざなみ』の発行

滋賀県退職校長さざなみ会

会長 片山 智成

滋賀県退職校長さざなみ会は、昭和44年7月21日に公立小・中学校退職校長をもって組織され、来年度で創立50周年を迎えます。県内には19の支部があり、現職校長会とも連携しながら地域に根差した活動を展開しています。

1 目的

会員の教育界における長年の経験を生かし、本県の生涯学習の振興に寄与し、あわせてお互いの消息を通じ相互の親睦を深め、ふるさと近江の発展を図ることを目的としています。

2 本部役員

会長、副会長、顧問、編集係、会計係、監査及び事務局

3 支部役員

支部の役員は支部長とか地区長等の呼称ではなく、すべて「世話係」と称しています。代表世話係は支部の代表。地区世話係は、各郡市内で小学校区数学区ごとに各1名、県内に12名います。「世話係」という呼び

方をしているのは、事業活動の中核である会誌『さざなみ』の編集をお世話するところに由来しています。常にすべての会員の消息に関わる世話を快くしていただくことにもつながり、結果も固く地域から盛り上がる本会を表しています。

4 主な事業

（会誌『さざなみ』の発行）

昭和40年頃、当時滋賀県教育長・人事委員長であった田中昊先生のもとには多くの退職校長が訪れ、話題はいつも退職後の先輩・後輩の消息であったそうです。田中先生は「消息集」発行を思いつかれて親しい退職校長に原稿を集めてもらい、自費で出版し全員に贈呈されました。この消息集の発行の日が本会発足の日と定められました。

以降、毎年2月に世話係による会費並びに原稿集め、4月に原稿集約（地区から編集係へ）、編集、校正をして年1回5月に発行しています。発行・配布には手間暇がかかりますが、会誌を心待ちにされている会員の顔を思い浮かべつつ、編集にあたっています。

地方の会報紙より

岐阜県退職校長会

「彩雲」第185号

「情報過多の中で」

理事 杉山 恵子

中学生棋士の快挙、進化する人工知能、世界情勢等々、報道を通し様々な情報に一喜一憂している毎日である。ある番組で「卵は古い方がおいしい」を多面的な方法で検証していた。外国のお菓子屋さんにはあえて古い卵を使用しているという。理由は泡立ちのよさ、味のよさだという。肉や果物は腐敗前がおいしいというが、生鮮食品選びの基本は「新鮮さ」だと指導してきた私にとって、この情報は目からうろこであった。

また最近、驚く情報に出合った。健康寿命の研究者、新開省二医師によると、総コレステロール値と悪玉コレステロール値は、高い方が寿命が長くなり認知症にもなりにくいという。細胞の構造や長年の追跡調査の結果に基づいて話されていた。コ

レステロールは成長期に必要だが、高齢になると要注意だと認識していただけない、これまた目からうろこである。実は私、両方の数値が高く、医者のお勧めで下げる薬を服用し始めたばかり。どうしたものかと悩む。情報にあふれ、価値観も多様な中で生きるのは、楽しくもあるが大変なこともあると改めて思う。尊敬する先輩の「物事は両面ある。思慮深くあれ」という言葉を今かみしめている。

鹿児島県退職校長会

「会報」第181号

「歩く」ing

鹿児島市 森屋 雅夫

「デスクワークだと太っていく。健康維持のために歩くのがいい。」との上司の言葉に触発され、それ以来「歩く」ことが生活リズムの一部になっている。在職していた地域では豊かな自然に触れながら歩いた。山あいを、田の広がる中を、川べりを、海辺を。

歩くことで季節の移ろいを感じる事ができる。肌を感じる

風、路傍に咲く健気な草花、風に乗って漂う香りなど。また、地域の方々とのさり気ない会話もある。

現在も終の棲家の周辺をその日の気分や体調に合わせて歩いている。坂道コース、トンネル回りコース、川沿いコース、買い物コース、墓参りコースと名前を付けている。

今年も妙円禅寺までの約20kmの遠行ができ、まだまだ歩けると安心できた。

現在、体重の変化もなく体調もよい。健康維持のため今日も「歩く」ingだ。

新潟県公立学校退職校長会

「会報」第153号

「断捨離」の光

高田支部 相浦 美子

退職を機に小さな家を建てた。身の丈に合った暮らしやすい平屋にしたので、古屋から持ち込むものは最小限に絞らざるを得ず、私の「断捨離」生活がスタートした。

祖母の代からの家であり、片付けは容易ではなかった。退

職後の片付けで体調を崩したという先輩の助言を思い出しつつ、じっくりと味わいながら取り組んだ。

極めつけは蔵の整理。明治・大正・昭和の歴史が詰まったようなテーマ館そのもの。中でも薄紙で丁寧に入れて保存されていた塗り物のお膳やお椀を捨てるのはさすがに心が痛んだが、潔くまとめた。

翌日、久しぶりに会った知人に偶然その話をすると、海外のお客様に利用したいとのこと、すぐに引き取りに来てくれた。我が家では長年お蔵入りだったものが国際交流の場でありお披露目というご縁をいただき、「断捨離」の光が見えた。

埼玉県退職校長会

「会報」第159号

「へー、そうなんだ」

飯能 河野 啓司

定年退職して早いもので七年目になる。それなりに忙しい日々を送っている。最初の四年間は再任用で初任者研修の指導教員をやっていた。現職時代と

ほとんど変わらない環境で、次の時代の教員を育てているというやりがいのある仕事であった。それが終わり、まだ体力があるうちにということ、家中の断捨離を数か月かけて行った。数十年間の自分の生活に一応、一区切りがついた気分だった。

それらも終わり、今は学校とは全く違う環境で生活している。こんな楽しい生活も世の中にあっただけというのが正直な感想である。

そんな生活の毎日の楽しみの一つに読書がある。市立図書館から二週に一度、数冊ずつ借りてくる。読んでいくうちに分からない言葉が数多く出てくる。電子辞書が欠かせない。「へー、そうなんだ。そういう意味なんだ。この言葉、今まで使ったことがないな」と思う。恥ずかしながら知らない言葉が多すぎる。また、今まで気がつかなかつた角度から物事を見ることができる。例えば「荘園の成立」を詳しく読んでいくと、その後の日本の歴史もスッキリと分かるような気がする。こういったことは中学や高校でも習ってきたはずなのに、今更ながら「へー、

そうなんだ。だからその後そうなんだ。納得」である。そこでインターネットでもっと詳しく調べてみたりすることもある。

今は便利な時代である。電子辞書で手軽に言葉の意味が引ける。インターネットで情報を瞬時に引き出すことができる。昔は重い辞書や遠くの図書館のやつかいになっていたものである。また分からないままやり過ごすことも多かった。便利な世の中になったのだから、これからも電子辞書やインターネット等いろいろと調べてみたいと思う。でも何だか分からないことがどんどん増えていくような気がする。気が重いようなワクワクするような不思議な気分である。

このように毎日が「へー、そうなんだ」の連続である。このような生活が送れるのも充実していた現役時代があったからこそだと思ふ。そして何よりも一番大事なのは、健康である。心身ともに健康で気力も充実しているもののである。そして明日も「へー、そうなんだ」と言っていたい。

戸張敦雄会長を悼む

全国連合退職校長会
会長 入子祐三

第八代会長 戸張敦雄先生には、去る平成三十年三月二十二日急逝されました。謹んでご冥福をお祈りする次第です。先生には、三月上旬から背骨圧迫骨折で安静治療をしており、諸会議を欠席され、四月初めから復帰したいと申されておりましたのに残念でなりません。享年八十九歳でした。

先生とは、二月二十三日の「平成二十九年度年間紀要」の最終校正を済ませ、秋の理事会会場の折衝にご一緒いただいたのが最後になってしまいました。

先生は、第六・七代会長の下で、全連退の中核として活躍され「綱領」「会旗」「教育憲章」の制定などをはじめ我が国の教育振興や本会の充実発展に努力されました。

廣瀬前会長の急逝後は、会長代行を九ヶ月務めた後、会長に就任、常任理事・総務部長としての経験を生かし、教育改革に関わる提言をまとめ中心的な役割を果たし、精力的に活動を進め多くの足跡を残されました。

ご葬儀は、三月三十日（通夜）三十一日（告別式）故人の生前からの意向が示されており、そのご遺志を尊重し、親族のみによる家族葬で執り行われました。

合 掌

遺された業績の数々

「温故創新」

平成二十四年の総会において、新しい道を拓いていく決意を述べ、全連退の在るべき姿を描き、基盤を強固なものにして行く方向に舵を切ると述べ、本部組織・機能のリニューアルを図ると語り、本部組織の見直しを行い、会務運営検討会議からの提言を受けて、五部会（総務・教育振興・生涯福祉・広報・会計）・二委員会（教育課題・出版事業・事務局の新体制で円滑且つ充実した活動を推進しました。

「全連退リーフレット」の作成

全国連合退職校長会の使命や活動を明確にし、分かりやすく示し、全連退の存在感を高めるとともに退職校長会への加入を促すために作成しました。

「各退職校長会の概要」の合本

各退職校長会の概要の共有を図り、各県の現状や特色ある活動を理解し合うために各退職校長会作成の概要を合本し「概要集」を作成しました。

教育図書出版

「教師のためになるQ&A」すぐに役立つ54のアイデア」「未来を拓く学校の力」「心を育む学校の力」を刊行しました。いずれも先輩校長の経験に基づく執筆内容で学校現場に結びつき新たな意欲を喚起する実践が述べられた教育図書の出版を続々と行いました。

設立五十周年記念事業

見事に成しとげ、会旗を高く掲げ、綱領を胸に心構えを正して、すべての会員の知力を結集し、全連退の使命を遂行していく所存を表明しました。

編集後記

○第54回全連退総会が無事終了いたしました。ここに総会を特集してお届けいたします。

○戸張敦雄前会長が3月22日、急逝されました。全連退本部は大きな衝撃を受けました。広報部としては、戸張前会長には部会に必ず出席いただき、編集・校正にも的確な助言・指摘をいただきました。しかしこれからはそれも叶わぬことになりました。とても残念でなりません。

○広報部員はこれからも少しずつではありますが、改善の努力を行ってまいります。今年度もご協力の程をよろしくお願いいたします。

全連退会報（208号）

発行 平成三十年六月三十日
発行所 東京都品川区東五反田

五二一—三三—三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三四四—二七六八

FAX 〇三三四四—二七六八

Eメール info@seunretai.org

振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇

○責任者 入子祐三

印刷 株式会社 信行社

電話 〇三三四三—三六二二